

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

A-1	総合政策学部の理念		変更の有無
	自然と人間の共生、人間と人間の共生		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
A-2	総合政策学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)	総合政策学部の目的(Webサイト上)	変更の有無
	<p>総合政策学部は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」という理念の下で、複雑かつ高度化した現代社会に潜む諸問題を発見し、問題解決及び政策立案能力を持った人材を養成することを目的としている。そのために、総合政策学部はヒューマン・エコロジーを視座とし、政治学、経済学、社会学、経営学、法学、工学、理学、言語、文化、思想といった個別的学問領域を横断的かつ重層的に構造化した教育課程を編成して、「Think Globally.Act Locally.」をモットーとした総合的かつ専門的な教育研究を行う。</p> <p>総合政策学科</p> <p>総合政策学部の理念である「自然と人間の共生、人間と人間の共生」についての基本的理解を深め、技術的環境の変化とマクロな社会変化に対応できる総合的な視野、問題解決能力、政策立案能力を持つとともに、「Think Globally.Act Locally.」をモットーとして地球規模で自然・文化・社会環境を維持発展させ、国際社会に貢献できる人材を養成する。そのために、「環境政策フィールド」、「公共政策フィールド」、「言語文化政策フィールド」という3つの専攻フィールドを設け、総合的かつ専門的な教育研究を行う。</p> <p>メディア情報学科</p> <p>デジタル・ネットワークを基盤とする豊かな社会を築くため、日々進歩する情報通信技術と情報メディアの本質を理解した上で、それらのあり方についての問題を人間重視の視点から先見性を持って見出す。そこで発見された問題を、フィールド調査や数理的解析などにより考察し、次に問題解決の政策案を作成し、さらにそれらを映像表現を含む多様なメディアを活用したコンテンツとして社会に発信することができる人材を育成する。</p> <p>都市政策学科</p> <p>都市空間・環境の制御技術とともに社会開発政策や都市経営政策に関する知識と能力を持ち、両者を有機的に統合しながら多様な都市問題の解決を行うことのできる人材、言い換えれば、総合的かつ専門的な見地から都市政策をデザインし、都市マネジメントを構想・実行できる人材を養成する。そのために、快適な都市空間を創造する技術(都市デザイン)と持続可能な都市経営の施策(都市マネジメント)という2つの領域に関する総合的かつ専門的な教育研究を行う。</p> <p>国際政策学科</p> <p>国連が掲げる平和構築、国際発展と開発、人権の擁護といった国際社会の諸課題に対して、総合的かつ専門的な見地から政策を構想・立案し、実践的な問題解決能力を備えた人材を養成する。そのために、「国際社会における平和構築」、「国際発展と開発」、「国際人権レジームの拡大と擁護」という3つの政策課題に関して理論と実践の双方の視点から総合的かつ専門的な教育研究を行う。</p>	<p>総合政策学部は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」という理念の下で、複雑かつ高度化した現代社会に潜む諸問題を発見し、問題解決および政策立案能力を持った人材を養成することを目的としている。</p> <p>そのために、総合政策学部はヒューマン・エコロジーを視座とし、政治学、経済学、社会学、経営学、法学、工学、理学、言語、文化、思想といった個別的学問領域を横断的かつ重層的に構造化した教育課程を編成して、「Think Globally. Act Locally.」をモットーとした総合的かつ専門的な教育研究を行う。</p> <p>総合政策学科</p> <p>総合政策学部の理念である「自然と人間の共生、人間と人間の共生」についての基本的理解を深め、技術的環境の変化とマクロな社会変化に対応できる総合的な視野、問題解決能力、政策立案能力を持つとともに、「Think Globally. Act Locally.」をモットーとして地球規模で自然・文化・社会環境を維持発展させ、国際社会に貢献できる人材を養成する。そのために、「環境政策フィールド」、「公共政策フィールド」、「言語文化政策フィールド」という3つの専攻フィールドを設け、総合的かつ専門的な教育研究を行う。</p> <p>メディア情報学科</p> <p>デジタル・ネットワークを基盤とする豊かな社会を築くため、日々進歩する情報通信技術と情報メディアの本質を理解した上で、それらのあり方についての問題を人間重視の視点から先見性を持って見出す。そこで発見された問題を、フィールド調査や数理的解析などにより考察し、次に問題解決の政策案を作成し、さらにそれらを映像表現を含む多様なメディアを活用したコンテンツとして社会に発信することができる人材を育成する。</p> <p>都市政策学科</p> <p>都市空間・環境の制御技術とともに社会開発政策や都市経営政策に関する知識と能力を持ち、両者を有機的に統合しながら多様な都市問題の解決を行うことのできる人材、言い換えれば、総合的かつ専門的な見地から都市政策をデザインし、都市マネジメントを構想・実行できる人材を養成する。そのために、快適な都市空間を創造する技術(都市デザイン)と持続可能な都市経営の施策(都市マネジメント)という2つの領域に関する総合的かつ専門的な教育研究を行う。</p> <p>国際政策学科</p> <p>国連が掲げる平和構築、国際発展と開発、人権の擁護といった国際社会の諸課題に対して、総合的かつ専門的な見地から政策を構想・立案し、実践的な問題解決能力を備えた人材を養成する。そのために、「国際社会における平和構築」、「国際発展と開発」、「国際人権レジームの拡大と擁護」という3つの政策課題に関して理論と実践の双方の視点から総合的かつ専門的な教育研究を行う。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
	めざす学生像		変更の有無
	<p>(1) グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力(問題発見能力)と、学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力(問題解決能力)を身につけた学生。</p> <p>(2) 自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識(学際性)と問題を科学的に分析する力を身につけ、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力(総合力)を身につけた学生。</p> <p>(3) 現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し(実学性)、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力(実践力)を身につけた学生。</p> <p>(4) 政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力(コミュニケーション力)と自己の考えを発信できる能力(プレゼンテーション力)を身につけた学生。</p>		<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年3月11日

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)	変更の有無
<p>総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。</p> <p>この目標を実現するための教育として、まず、人が生きていく場としての「環境」、維持すべき社会としての「公共」、ならびに思考がよって立つ「言語・文化」に関わる政策を基礎とします。そして、さらに現代社会の危機と可能性を踏まえて、経済・社会活動の場として重要性を増す「都市」、相互影響と関係性がさらに深まりつつある「国際」、そして急速な技術革新のもとで社会を変革しつつある表現手段としての「メディア」に関わる政策に着目します。</p> <p>学生は、これらの様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こうしたポリシーにもとづき、学士(総合政策)の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力(問題発見能力)を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力(問題解決能力)。 ・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識(学際性)と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力(総合力)。 ・フィールドワークとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し(実学性)、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力(実践力)。 ・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力(コミュニケーション力)と自己の考えを発信できる能力(プレゼンテーション力)。 	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-1. 「理念」、A-2. 「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認			チェック欄
【確認1】	「総合政策学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 総合政策学部の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「総合政策学部の目的(Web サイト上)」は、A-2「総合政策学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「総合政策学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「総合政策学部の目的(Web サイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:学部長)	
	検証手続き	学部長室委員会の審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。	
	決定・判断時期	毎年4月	
	検証エビデンス	教授会・議事録	
検証プロセスを適切に機能させているか		<input type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない	
	検証方法(指標、測定方法など)	学部自己評価委員会において検証していく。	
	成果	<input type="checkbox"/> 成果あり(内容:)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容:)	<input checked="" type="checkbox"/> 計画なし
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年3月11日

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

A-3

教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) 広範な分野の知識の獲得と政策分析力の形成	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	(狙い・内容) 総合政策、メディア情報、都市政策、国際政策の広範な分野の知識を身につけると同時に、文書、文献の意味を的確に理解し、さらに自らの考えを正しく文章で表現するための読解力を養う。また、データを活用するために必要となる知識と技法の基礎を習得する。さらに、専門的知識の習得過程において、問題発見能力、デザインおよび計画能力の形成を目指す。これらを通じて、的確な状況判断と状況分析の能力と、政策および計画の立案に必要な能力を身につける。	
目標2	(タイトル) 各分野における実務的専門的技術の獲得	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	(狙い・内容) 総合政策(環境政策、公共政策、言語文化政策)、メディア情報政策、都市政策(建築)、国際政策の各分野において求められる専門的知識と専門技術を獲得する。そして、学生が卒業後に、産官学の各分野において、その知識と技術を活用できるようになることを目指す。	
目標3	(タイトル) 語学力と的確なコミュニケーション能力の形成	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	(狙い・内容) 英語を中心とする語学力および政策に関する議論やディベートの能力を向上させるとともに、コンピュータによる情報処理とプレゼンテーションの技法を習得する。このことを通して、将来的には国内外において自らの政策や計画を的確かつ論理的に説明できるようになることを目指す	
目標4	(タイトル) 社会の諸問題を見据えた課題設定とそれを遂行するための能力の形成	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	(狙い・内容) 各分野の教員が自らの能力を常に研鑽し、教員間あるいは教員と外部の専門家との協働作業を通して、幅広い研究課題を指導できるような体制を構築する。また、学生は、卒業論文、進級論文、ファイナルレポートなどの各学年に課せられる研究課題に対する取り組み、また各分野の専門教員による研究指導により、その問題発見能力、解決能力を研鑽し、そのことを通して社会の諸問題に対峙することができる能力を形成する。	

A-3. 「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:学部長)
	検証手続き	学部長室委員会の審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年4月
	検証エビデンス	教授会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか		<input type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない
	検証方法(指標、測定方法など)	学部自己評価委員会において検証していく。
	成果	<input type="checkbox"/> 成果あり(内容:) <input checked="" type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容:) <input checked="" type="checkbox"/> 計画なし
	検証エビデンス	学部自己評価委員会の議事録を作成していく。
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年3月11日

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

A-4

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
<p><基本ポリシー></p> <p>(1) キリスト教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「伝えられるためではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。</p> <p>(2) 学びの起点: 「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally Act Locally」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を養います。</p> <p>(3) 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成: 総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。</p> <p>(4) 各分野における実務的専門的技術の獲得 各学科、各分野における必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけでなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズ・オン・ラーニングを意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通じた学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座(学部研究会と呼んでいます)も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。</p> <p>(5) 語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養 英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等での確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICT を柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。</p> <p>(6) 諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の形成 学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッションのスキルも磨きます。</p> <p><4年間のカリキュラムの流れ></p> <p>(1) 1年次にはキリスト教教育および総合政策の基本理念を学ぶ他、各学科の専門的な内容を知るための学科入門科目があります。また、少人数での英語教育とコンピュータ演習他、いくつかの必修科目を設けます。学生はこれらの科目の履修を通し、各自の学習目標と専門領域を検討し、1年次の終わりに学科を選択します。</p> <p>(2) 2年次以降は4つの学科に所属し、それぞれの視点から現代社会の諸課題を理解し、専門的な学びを開始します。学科ごとに必修科目を用意するとともに、引き続き英語能力の上達をめざす少人数科目を提供します。なお、一級建築士の資格修得を目指す建築士プログラムも2年次から始まります。</p> <p>(3) 3、4年次では、学生は全員いずれかのゼミに配属され、教員との議論や実践的なフィールドワーク、ハンズ・オン・ラーニング等を通して、専門性をさらに深めます。また一級建築士や各種教職以外にも各種資格取得に必要な科目を提供します。</p> <p>(4) 上記を踏まえて、各学科では次のような教育課程の編成・実施方針を定めます。</p> <p>総合政策学科では、広範で多様な知識と政策の理論を学びつつ、それらを環境政策・公共政策・言語文化政策の3つのフィールドで現実の政策に応用していくための専門知識・技能・態度を修得する科目群を用意します。</p> <p>メディア情報学科では、人間を中心に据えた情報技術や社会のあり方を総合的に考え、情報技術を通じて実現するため情報社会政策、メディアと情報通信技術に関する専門知識・技能・態度を習得する科目群を用意します。</p> <p>都市政策学科では、快適で安全な都市空間をデザインするための基本的な考え方とそれを実現するための設計技術、都市空間を適切にマネージするための都市経営政策など、都市空間を計画・創造・運営するための専門的知識・技法・態度を習得する科目群を用意します。</p> <p>国際政策学科では、国際機関や多国籍企業などグローバルレベルで活躍できる人材の育成を目指し、グローバルな視点からの政策を立案し、分析するための専門知識・技能・態度を習得する科目群を用意します。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有り <input type="checkbox"/>無し</p>

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

作成日：2015年3月11日

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認			チェック欄
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:学部長)	
	検証手続き	学部長室委員会の審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。	
	決定・判断時期	毎年4月	
	検証エビデンス	教授会・議事録	
検証プロセスを適切に機能させているか		<input type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない	
	検証方法(指標、測定方法など)	学部自己評価委員会において検証していく。	
	成果	<input type="checkbox"/> 成果あり(内容:)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容:)	<input checked="" type="checkbox"/> 計画なし
	検証エビデンス	学部自己評価委員会の議事録を作成していく。	
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()		

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年3月23日

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー;AP)	変更の有無
<p>【関西学院大学(学士課程)】</p> <p>I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー</p> <p>世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。</p> <p>関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。</p> <p>そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多角的に評価することを基本的な方針としています。</p> <p>II. 各学部のアドミッション・ポリシー</p> <p>神学部アドミッション・ポリシー</p> <p>神学部では、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などについて専門領域ならびに学際的領域での学びを深め、その精神に基づいて社会に奉仕できる人材を育成することを目標としています。</p> <p>くわえて高等学校までの基礎的な学習を土台にして、ボランティアや課外活動、あるいは社会人としての経験などから培った多様な能力をもつ者を幅広く受け入れています。</p> <p>そのため、以下の項目を募集方針の要素として、筆記を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験によって高等学校における基礎学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。</p> <p>神学部に入学を望む者に期待することは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教の生み出した思想、文化的財などの学際的な領域に興味をもっている 2. キリスト教について幅広く関心をもっている 3. 世界の歴史や日本の歴史について知識がある 4. 日本語、英語について一定水準の能力がある 5. 「倫理」あるいは「数学」あるいは「地理」について知識がある <p>キリスト教伝道者コースに入学を許可される者は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 将来クリスチャンワーカーを含めた伝道者となる意志をもっている 7. バプテスマ(洗礼)を受けた者である 8. 聖書、キリスト教について一定量の知識がある 9. 聖書、キリスト教について調べることができる <p>文学部アドミッション・ポリシー</p> <p>文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育を土台とする人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行うことを教育理念としています。多様な領域にまたがる人文学の教育・研究のために、文学部は文化歴史学科、総合心理科学科、文学言語学科の3学科で構成され、さらに11の専修に区分されていますが、どの専修に所属しても学生それぞれの関心に従って基礎的な科目群から専門的な科目群まで幅広く履修できるよう柔軟なカリキュラムを組んでいます。また最終的な到達目標として卒業論文の作成が必修とされています。4年間の勉学を通して、主体的に学び、自ら問題を見出し追究していく姿勢が重要です。高等学校の学習においても、基本的な科目全般にわたって基礎学力を充実させるとともに、幅広く客観的な視野と、先入観や画一的なもの見方に囚われない柔軟な思考力、さらには自らが興味関心を持ったテーマに対して粘り強く取り組んでいく姿勢を培っておくことが求められます。このような総合的な知的基盤を備え、かつ自らの見出した研究課題に積極的に取り組んでいける資質に富んだ者を、一般入学試験・各種入学試験それぞれの特徴を生かして、本学部の学生として受け入れることを基本方針としています。</p> <p>社会学部アドミッション・ポリシー</p> <p>社会学部は、学士課程教育で培っていかうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いている。</p> <p>[態度・関心]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関西学院大学および社会学部の教育理念・教育内容を理解し、それに基づいて人間的に成長しようとする意志をもっていること。 ② 社会・文化・人間について、そして現代社会のさまざまな現象や問題について基本的な関心を持ち、社会学を学ぶ意欲と見通しをもっていること。 <p>[知識・思考]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高等学校で学ぶ基本的な科目について、優れた学力水準にあること。社会学を学ぶうえで、その基礎となる、歴史(日本史・世界史)、地理、政治・経済、現代社会に関する基本的な知識を身につけていること。 ② 論理的かつ実証的な思考や判断の基礎となる、日本語(国語)、数学についても、十分な能力を身につけていること。 <p>[技能・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分で情報を集め、自分で考え、それを表現するという経験をもっていること。 ② 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現するために必要な、日本語および英語(あるいは他の外国語)の基礎的な運用能力を身につけていること。 <p>入学試験は、教科・科目に関する筆記試験を行う一般選抜入試と、面接等を探り入れた各種入学試験を行います。アドミッション・ポリシーが求める各要素(「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」)は、それぞれの入学試験において、重み付けを行い評価します。</p> <p>法学部アドミッション・ポリシー</p> <p>法学部は、ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的としています。この目的を達成するために、(1)科学的な思考方法の習得、(2)広範な知識と社会的視野の獲得、(3)正しい価値観と豊かな人間性の形成、(4)人権感覚の陶冶、(5)国際的・地球的な視野の確保という教育目標を定め、①学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得、②少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成という実施目標を置いています。法学部は、こうした目的と目標に十分に答えることのできる学生として、基本とされる教科を着実に学習しているだけでなく、時代や場所を問わず、様々な生起する社会問題や社会現象に幅広く関心の持てる学生を受け入れることを方針としています。</p> <p>入学試験ではこうした方針に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

経済学部アドミッション・ポリシー

本学経済学部では、このような考えから、外国語の能力、社会や世界に対する知識、論理的な思考能力や判断能力が、これからのビジネスの世界や公的機関で働くために必要不可欠な基礎学力であると考えます。世界的な視点から社会のさまざまな出来事に関心を持ち、自分で考える人材を育てていきたいと考えております。その意味で、経済・社会の問題に関心があり、主体的に考えていく能力を身につけたいと思っている学生を求めます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

商学部アドミッション・ポリシー

～真に創造的な能力を有するビジネスパーソンを育成する(Fostering Creative Minds for Business)～

本学部の教育理念・目的は、“Mastery for Service(奉仕のための練達)”というスクールモットーに基づいて、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにあります。すなわち、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、さまざまな領域でその能力を十分に発揮できる人材を、社会に送り出すことにあります。本学部は、この教育理念・目的に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたいと考えています。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

人間福祉学部アドミッション・ポリシー

人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の相互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。

一般選抜入試ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力があり理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。

なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解がある」ことが、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解がある」ことが、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのこころ(スピリチュアリティ)に関する学問に関心があるか、身体(スポーツ・健康)に関連する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解がある」ことが求められます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

国際学部アドミッション・ポリシー

国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようになることである。

このような教育・研究上の理念・目的を持った本学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れる。

1. 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者
2. 主体的な関心に応じて、みずからの問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲を持つ者
3. グローバル化する社会の中で他者の想念や異文化に関する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者
4. 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲を持つ者
5. 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者
6. 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

教育学部アドミッション・ポリシー

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

より具体的には、教育学部は、教育という営みに幅広い関心を持ち、かつ学校、幼稚園、保育所など教育・保育現場や広く社会における教育の諸活動にかかわり、問題解決ができる実践家を目指す者を受け入れたいと考えています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において評価しています。

総合政策学部アドミッション・ポリシー

本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激あふれる学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身につけるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探究することが期待されます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

理工学部アドミッション・ポリシー

自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義教育を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、次のような学生を求めます。

＜理工学部が求める学生像＞

- ・自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生
- ・理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
- ・人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生
- ・日本語および英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

以上の求める学生像に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施します。高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価します。

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー

1. 一般選抜入学試験

一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。

一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。

全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。

全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。

学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」に記述式を探り入れ必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。

理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

一般入学試験関学独自方式日程は、英語・数学科型、関学英語併用型、関学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学科型は、関西学院大学独自の「英語」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。関学英語併用型・関学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語」または「数学」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、文系学部が「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部が「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業における国際ナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリーで実施する入学試験です。

国際貢献活動を志す者のための入学試験

国際貢献活動を志す入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関し興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてCEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模擬国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問では英語によるプレゼンテーションと面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力を評価します。適性面接審査においては、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを面接を通じて評価しています。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験

英語能力、国際経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学の国際ナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関し興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(CEFR B1程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

国際ナショナル・バカロレア入学試験

国際ナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学の国際ナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格である国際ナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、国際ナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でIB PREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一校校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

グローバルキャリアを志す者のための入学試験（英語エッセイ方式）

グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである（グローバルキャリア・プログラム）において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会で活躍する能力を身につけることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック4題のうち、2題を選択し、それぞれ英語300語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象とします。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、個人面接を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し調査書等提出された書類とあわせて「主体性」を中心に書類審査を行います。筆記審査は英語、数学、理科（物理・化学・生物のうち1科目選択）により行います。これらの教科・科目における基本的な学力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果とあわせて第一次審査を行います。面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問や、学ぶ意欲、人間性を評価し、一次審査の結果と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

院内推薦入学

1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

協定校推薦入学

1) キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) グローバル校

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

3) グローバル＋キリスト教校校

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるためだけでなく、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

神学部

関西学院大学神学部において勉学することに強い意欲をもつ、成績優秀な生徒を推薦によって求め、総合大学の特色を生かし、豊かな人格を培い、幅広い一般諸学の教養と深い神学的素養とを身に付けさせ、社会に仕える者を育成することを目的とします。審査に際しては、志願提出書類と面接を通じて、「知識・技能」「思考力・判断

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

文学部

関西学院大学文学部において勉学することに強い意欲をもつ個性ゆたかな生徒を、推薦によって入学を許可することによって入学後の修学への準備期間を確保し、入学後に文学部においてその才能をさらに伸ばすとともに、本学部独自の学風を振興し、広く社会に寄与し得る人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

社会学部

関西学院大学社会学部において勉学することに強い意欲をもつ成績優秀な生徒を、広く国内外から推薦によって求め、建学の精神に基づく将来性ある人材を育成することを目的とします。審査では、志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多元的に評価します。

法学部

関西学院大学法学部で法律学・政治学を学ぶことに強い意欲をもち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、関西学院建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備えた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

経済学部

関西学院大学経済学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな活力ある生徒を推薦入学させることによって、学生の多様化をはかり、学部諸活動の一層の活性化を推進して、本学建学の精神に基づく有能な人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

商学部

関西学院大学商学部において勉学することに強い意欲をもつ学力優秀で個性ゆたかな生徒を推薦によって求め、本学建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備え、真に創造的な能力を有し、かつ国際感覚に優れた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

人間福祉学部

関西学院大学人間福祉学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性豊かな生徒を求め、本学の建学の精神に基づき、将来性ある人物を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

国際学部

関西学院大学国際学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな生徒を推薦入学させることによって、本学建学の精神および本学部の教育・研究上の理念である「国際性の涵養」に基づく世界市民と呼ぶにふさわしい国際性と人間性を備えた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、入学者を選考します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を提出された書類および面接によって選考します。

総合政策学部

関西学院大学総合政策学部で学ぶことに強い意欲を持ち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、キリスト教主義に基づく教育という関西学院建学の精神を基盤として、社会に対する深い洞察力を備え、かつ国際感覚に優れた人材を育成することを目的とする。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

理工学部

関西学院大学理工学部への入学を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。

審査では出願時提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

4. 公募制推薦入学試験

1) スーパーグローバルハイスクール・教育連携校対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。2014 年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。このスーパーグローバルハイスクールや本学が教育連携を行う高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多元的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

2) スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験

(スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験)

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。また関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎知識・技能と柔軟な思考力を有しその能力を高い倫理観のもとで発揮し、課題発見・解決能力に優れ創造性と未知に挑戦する気概に溢れた人材の育成を目指しています。文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。スーパーサイエンスハイスクール課題研究等を通じて高められた科学的な能力と強い勉強意欲を有する生徒を本推薦入学試験によって求め、その能力を関西学院大学理工学部の教育によりさらに向上させ、将来国際的に活躍する科学技術系人材に育成することを目的としスーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験を実施します。一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において面接を中心にしながら工夫をこらした審査を行い、課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多元的に評価します。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

3) 理工学部 公募制推薦入学試験

生命科学科・生命医化学科

生命科学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部に入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命科学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。審査においては、生命科学に関する小論文審査を行い、本学生命科学科・生命医化学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、生命科学科・生命医化学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

人間システム工学科

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるコピキタス・ロボティクス技術に必要な学問を指向します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間をトータルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しい人と人工物のインタラクション、および人工物を介した人と人のインタラクションを創造できるような人材を育てます。このような趣旨のもとに本公募制推薦入試では従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を募ります。コンテンツ制作(映像・音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、フリーウェアやインタラクティブアート等を幅広く対象とする)やロボット等のハードウェアを伴うシステム制作経験のある創造性豊かな学生を求めます。審査においては、作品審査を行い、本学人間システム工学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品審査の結果と合わせて総合的に判断します。

5. AO入学試験

関西学院大学のスクールモットーは“Mastery for Service(奉仕のための練達)”。これは、第4代院長C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。

神学部

関西学院大学神学部は、1889 年の関西学院創立と同時に設置された、最も古い伝統ある学部です。神学部はその設立時からキリスト教の伝道者育成を主要な目的として掲げています。1952 年に新制大学の一学部として開設されてからも、学術的な質を高めつつ、高度な専門性を持つ伝道者・クリスチャンワーカーの育成に力を注いで来ました。世界の動向を視野に入れ、21 世紀における日本と世界のキリスト教宣教を担うためには、将来の伝道者・クリスチャンワーカーがしっかりとキリスト教に関する専門的な知識を身につけるとともに、社会の諸現象への深い洞察力を持ち、他の諸分野と学問的な対話をする力を養う必要があります。本学部では、このような趣旨に基づき、従来の学力審査では十分に表現できなかった多彩な能力を評価するためAO入試を行います。このAO入試では、自分自身の考えを表現し、対話する能力を評価するとともに、キリスト教信仰に根ざして伝道者・クリスチャンワーカーとなろうとする志、社会での経験や異文化との出会い、自分らしい思考や資格を重んじています。高校生、社会人や帰国生徒などの枠を越えて、広く志願者を募っています。入学者選抜に際しては上述の趣旨にのっとり総合的に判断しますが、提出された書類・調査書によっておもにキリスト教理解を中心とした「知識・技能」と志望動機とを評価し、面接審査によっておもに「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を評価します。

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

文学部

関西学院大学文学部は、本学のスクールモットーである Mastery for Service(奉仕のための練達)の精神を踏まえ、人間の本質を追究するために深い学識と広い視野を養う学びの場です。文化や歴史、心理、文学や言語の教育研究を通じて、人間存在の営みの本質や現代的・普遍的な課題を追究します。

本学部では、このような考えに基づいて、AO 入試を実施します。この入学試験は、従来の一般学力試験では判断することができない多様な能力を積極的に評価し、文化・芸術活動や語学能力で顕著な実績を持つ人で、意欲あふれる人を求めます。また、グローバルな視野を持った帰国生徒や豊かな社会経験を勉学・研究に活かそうとする人を求めます。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

社会学部

関西学院大学社会学部は、知的好奇心と探究心にあふれ、幅広い視野・知識と柔軟な思考力を持ち、さらにそれに基づいた強い意志と行動力をもつ人材の育成をめざしています。問題意識を持ち、幅広く学び、自分の頭で考え、自分の体で調べ、自信をもって行動することのできる人間こそ、現代社会のそれぞれの現場で、さまざまな問題を発見し、そして解決していくことのできる人間だと考えるからです。また、そうした一つ一つの積み重ねによってこそ、よりよい社会が実現できると考えるからです。

本学部では、このような趣旨に基づいて、従来の一般学力試験では十分に発揮できなかった多様な能力を積極的に評価するために、AO入試を実施します。この入学試験は、大学教育を受けるにふさわしい基礎学力を前提としたうえで、スポーツ活動、文化・芸術活動、社会貢献活動(ボランティア活動など)などの分野において、優れた活動を経験し、しかもその経験から得たものを大学での勉学と自己陶冶に活かして、本学部がめざす柔軟な思考力と積極的な行動力をもった人間に成長する可能性のある者を、積極的に迎え入れようとするものです。

したがってAO入試に応募する皆さんに問うのは、単なる活動の実績ではありません。皆さんがそれぞれの活動の経験から何を心得、どれだけ成長したのか、そしてそれらの成果を本学部での勉学と自己陶冶の基礎としつつ、さらに大きく飛躍する意欲をどれだけ持っているか、まさしくこの点を問うのです。

審査は、書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては、提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から、「態度・関心」「技能・表現」を中心に評価します。筆記審査においては、日本語資料および英語資料による読解・論述審査を行い、「知識・思考」「技能・表現」を中心に評価します。さらに面接審査においては、「態度・関心」「技能・表現」を中心に、総合的に評価します。

法学部

関西学院大学法学部は、本学のスクールモットーである Mastery for Service の理念のもと、ソーシャル・アプローチという教育方針にもとづき、法学・政治学を多面的に考察することによって、幅広い社会現象を深く洞察できる力を養うとともに、明確な目的意識を持って社会に奉仕する精神を持った人材の育成をめざしています。また、国際化、高度化する現代社会においては、様々な分野において、豊かな人間性や高いコミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる人材が求められており、このような素養を有する者を受け入れたいと考えています。

したがって、法学部では、大学での教育に必要な基礎的学力を有していることを前提に、一般入学試験では判断することが難しい様々な能力や社会奉仕精神を含む豊かな人間性、優れたコミュニケーション能力、またはリーダーシップを持ち、目的意識の高い学生を募集します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

経済学部

関西学院大学経済学部は、経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて、社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てることを目的としています。

大学教育の場を活気と創造性に満ちたものにするためには、個性ゆたかで活力ある学生を受け入れることで、学生たちの間に生き生きとした状況を作り出し、さらには大学教育そのものを活性化すると考えています。経済学部が求めるのは、学問を通じて発揮される活力です。このような活力は、単に勉学においてだけでなく、生活全般にわたる人間としての働きのなかで培われるものです。そこで、高校時代の勉学のほか、学校内外での様々な活動に積極的に取り組んだ経験を通じて培われた能力や人間性、社会人としての経験などを出願資格とし、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。また、二次審査の面接審査では二つの方式を設けています。自己推薦型ではプレゼンテーションにより表現力・主体性などを評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。数学能力重視型では、数学に関する口頭試問を行い数理解能力について評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。

商学部

関西学院大学商学部の教育は、本学のスクールモットーである“Mastery for Service(奉仕のための練達)”の精神を踏まえ、真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成(Fostering Creative Minds for Business)を目的としています。このような教育理念と目的を具現化するために、現代社会の中で企業などの果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理技法、これら政策や管理技法の与える影響、企業などの社会的責任・倫理の重要性などを体系的に教育してきました。

激動の現代社会において、このような教育理念を実現し、本学の教育目的をより一層効果的に達成するためには、様々な経験や活動を通して豊かな人間性を身につけ、本学の建学の精神を理解し、商学部で学びたいという強い意志を持っている者を日本全国から商学部へ迎え入れることが必要です。そこで、従来の学力審査では十分に与えることができなかった多彩な能力を認識し、当該能力を多面的に評価するために、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

人間福祉学部

人間福祉学部は、関西学院大学のなかで伝統のある「福祉」の分野をさらに進化させ、「人間そのもの」そして「その生活環境としての社会」について理解を深め、よりよい社会の実現をめざして学ぶ学際的分野をテーマとする実学志向の学部です。

社会福祉学科では、社会的支援の必要な人の自立や自己実現の援助、福祉に関する政策や現実を学び、未来の福祉を担うソーシャルワーカーとしてリーダーシップを発揮できる人材、社会起業学科では、国際的な視点とコミュニケーション能力を養い、地域社会や国際社会に貢献できる行動力と知識を身につけ、社会起業とともに企業、自治体、NPO・NGO、国際機関などで社会のあり方を提案できる人材、人間科学科では、人間を「こころ(スピリチュアリティ)」と「身体」の両面からとらえ、「こころ」や「身体」を病む人や悲しみの中にある人に寄り添い、人々のQOL(いのちの質・生活の質)を支える人材を育成します。

A0 入試では、基礎的な学力に加えて、社会貢献活動、文化・芸術活動の実績、体験・経験、創造力、能力・資格、リーダーシップなどで特色を持つ者、豊かな人間性と学ぶ意欲を持つ者を積極的に受け入れます。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

国際学部

関西学院大学国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するため、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としています。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成をめざしています。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようになることです。

本学部では、このような教育・研究上の理念・目的に基づいて、A0 入学試験を実施します。この入学試験では、本学部に強い関心と学習意欲を持ち、文化・芸術活動に関して秀でた体験や経験を有する人、社会人を対象として、従来の一般学力試験では判断することができない多様な経験、活動を通じて身につけた豊かな人間性、将来性、可能性、能力を多面的に、積極的に評価します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、多様な能力を評価するA0入試を実施します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を書類審査、筆記試験(英語論述審査・課題小論文審査)、グループディスカッション等および、個人面接を行い、総合的に評価します。

総合政策学部

現代社会は、環境破壊や資源・人口問題、国際紛争など多くの深刻な問題をかかえており、各国政府や国際機関、非政府組織、民間団体などさまざまな組織や団体が、問題の解決をめざしています。関西学院大学総合政策学部では、「Think globally. Act locally.」(地球規模で考え、足元から行動せよ)をモットーに、こうした地球規模の問題に対して、いかにして適切な政策を打ち出せるかを幅広い学問領域を結集させ、総合的に追求しています。

総合政策学部が求めている学生像は、現実世界の問題に対してしっかりと問題意識をもち、解決に向けて情熱を持って取り組むことで、人々がより幸福に暮らすことのできる社会の実現に貢献しようとする学生です。総合政策学部では、このような学生は少なくとも次のような能力を備えていなければならないと考えています。1つ目は、現実世界の問題を解決したいという志と情熱を持っていることです。2つ目は、複雑に入り組んだ現実世界の問題を解きほぐし、その中から具体的な課題を発見・抽出するための想像力と論理的な思考力です。3つ目は、自らの考えや意見、政策提案を的確に表現し、伝達するための発信型のコミュニケーション能力です。

総合政策学部では、第1次審査として読解・論述審査を行います。第1次審査では、記憶力や単なる知識だけでは測れない読解力、思考力、論理力、表現力などを多面的に評価します。第2次審査では面接試験によって皆さんの情熱や想像力、論理的な思考力を審査し、提出された書類と合わせて、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

理工学部

関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎をしっかりと学び、それらを応用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、本学の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深みのある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象にA0入試を実施します。豊かな自然の中にある神戸三田キャンパスに、最新鋭の研究装置・設備を備えた理工学部で、自然科学の真理の探究に挑戦してみませんか。そんな意欲のある若者たちが多数受験してくれることを願っています。

＜数理科学科＞

数学は人間の持つ論証能力を用いて、数や図形の性質の探求、自然現象と社会現象の記述などを対象とする学問です。従来は、具体的事例から抽象されたモデルやその性質を調べる抽象的側面が強調されたこともありますが、現在では、高度に発達した数学を自然現象と社会現象に適用して理解を深め、科学技術の発展や人間活動に貢献するという方向が顕著になってきています。

2009 年度より新設された数理科学科は物理学科数学専攻を発展拡充したもので、従来の数学と応用にも範囲を広げた応用数理の2つのコースがあります。ただし、コース分けは4年生からで、それまでは大学数学の基礎知識の修得とその応用能力の向上に努めます。数学の応用に当って必須のコンピュータ運用能力の向上を計ることもその一環です。

数理科学科では、A0入試において、高校生、社会人や帰国生徒などの枠を超えて広く、「自由な発想」ができて「確かな思考力」を備えた、優秀な学生を求めます。

審査においては、数学に関する小論文審査を行い、本学数理科学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、数理科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

作成日：2015 年 3 月 23 日

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

＜物理学科＞

電子機器をはじめ、私達の身の回りで物理学の知見を利用しないものは少ないでしょう。この事実は、物理学の特徴をよく表しています。

物理学は、様々な現象に共通する少数の機構や原理を見出し、それらによって多くの現象を理解しようとします。こうして得られた重要な原理は、理解しなかった現象のみならず、より広い現象にも適用できることがあります。この、個々の対象にとらわれない物理学の考え方・方法が、単なる技術改良に留まらない、今までに存在しなかった新しい技術の創生を導いてきました。

物理学をしっかり学ぶことで、その知識と応用力が得られますが、何よりも、その学びの過程で、現状を論理的に分析して課題を発見し、対応を考える能力が鍛えられます。よって、物理学を学ぼうとする者には、まず、データに基づきながら物事を幅広くとらえ、粘り強く考えようとする強い意欲が必要です。そして、現代社会は、このような能力・意欲をもつ人材を求めています。

物理学科では、AO入試により、基礎学力をもとに暗記にたよらない自由な発想と幅広い思考のできる／意欲をもつ者を求めます。そして、物理学科で進められている、宇宙物理、物性実験、理論物理などの研究活動を通じて、社会に貢献できる人材を育成したいと考えています。

審査においては、物理学に関する小論文審査を行い、本学物理学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

＜先進エネルギーナノ工学科＞

地球温暖化を防止し、持続可能な社会を実現するためには、新たなエネルギー技術の開発が不可欠であります。そのためには、従来の技術の枠組みに捉われない、学際的な新たな取り組みが必要です。

先進エネルギーナノ工学科は、ナノテクノロジーをベースとした新しいエネルギー科学・工学の教育研究を通して、上記課題の解決にチャレンジします。本学科では、エネルギーを創る、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、「ものづくり」をキーワードに、基礎から応用までの体系的な教育研究を行うことにより、今度のグリーンイノベーションの核となる技術と人材の創出を目指しています。

本学科の卒業生は、電子・電気、素材、通信、自動車、重化学工業、エネルギーなどの産業や、エネルギー政策に携わる行政などの分野での活躍が期待されます。本学科で培った基礎力・応用力・柔軟な思考力を駆使して、我が国が抱えるエネルギー問題に新たな視点から取り組むことができる人材として活躍します。

このような趣旨のもと、先進エネルギーナノ工学科ではAO入試によって、持続可能な社会を実現するための新しいエネルギー科学・工学に強い興味をもち、主体的な学びを通して成長しようとする意欲的な学生を募ります。

審査においては、数学に関する小論文審査を行い、本学先進エネルギーナノ工学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、先進エネルギーナノ工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

＜情報科学科＞

情報技術は社会のニーズの多様化に応えながら、日進月歩の発展を遂げるとともに、インターネットやスマートフォンなどの通信技術と連動することで、われわれの社会に深く浸透しています。

情報科学科では、次世代の情報通信を支える先進的な技術を開発できる人材を育成するため、情報システムとネットワークシステムに関する教育と研究に取り組んでいます。さらに、情報通信技術を基盤とした新しい産業や生活スタイルの創造を目指しています。このため、基礎的な理論を十分に学んだ上で、実践的なプログラミングや応用技術を駆使できる潜在力を秘めた、意欲と知的好奇心に富んだ学生に是非入学して欲しいと考えています。

このような趣旨のもと、情報科学科ではAO入試によって、学力試験のみではとらえきれない能力を持ち、情報通信技術およびそれを活かした分野で活躍する可能性を秘めた学生を広く募ります。プログラム制作(CやJavaなどによるプログラム、スマートフォン用アプリ、ホームページ、ゲーム等)や、情報処理やインターネットに関連したプロジェクト(文化祭などの情報機器を使った展示、クラブのホームページ作成、情報機器を使ったボランティア活動等)の経験のある創造力豊かな学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学情報科学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、情報科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。

＜人間システム工学科＞

ユーザの好みや感性に合わせた製品の開発など、人間を中心としたものづくりが産業における主要な課題となっており、改めて人とコンピュータシステムとの関わりが注目されています。

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるロボティクス技術やユビキタス技術の研究分野を強化します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間をトータルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しいヒューマンシステムインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもと、本学科ではAO入試によって、従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を広く募ります。コンテンツ制作(映像作品、音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、アート等幅広く対象とする)やロボットの制作、またはこれらに関連したプロジェクト(文化祭や卒業式での映像を用いたイベントなど)の経験のある創造性豊かな学生を求めます。理系に限定せず、人間の心理的な特性や感性に興味を持つ意欲のある学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学人間システム工学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。

6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元的入試」の一環として行っています。諸外国で勉強してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験

「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所の推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

文学部特別選抜入学試験（スポーツ活動）

さまざまな優れた能力をもつ者に文学部で学ぶ機会を与えるという観点から、高等学校においてスポーツ活動で優れた能力と競技実績をもち、大学教育を受けるに必要な基礎学力を有する者を選抜し、本学において、スポーツによって培われた個性を伸ばし、広く社会に寄与しうる人間を育成することを目的とします。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎的・基本的な「知識・技能」と、「思考力・判断力・表現力」を小論文によって評価します。また面接審査において「主体性・多様性・協働性」を評価します。

【関西学院大学大学院（博士課程前期課程）】

関西学院大学大学院（博士課程前期課程）は、関西学院のミッション及び各研究科が定める「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に共感し、専攻分野における研究

能力または高度な専門性を修得するとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することについて適性を有した学生を世界のあらゆる地域から受け入れる。

そのために、多様な入試制度を実施する中で、これまでに培われた一般的及び専門的教養、資質、能力、意欲、人間性、研究指向性などを多角的に評価することを基本的な方針としている。

（大学院学則第1条、第2条より）

【関西学院大学大学院（博士課程後期課程）】

関西学院大学大学院（博士課程後期課程）は、関西学院のミッション及び各研究科が定める「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に共感し、専攻分野における研究

能力または高度な専門性を修得するとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することについて適性を有した学生を世界のあらゆる地域から受け入れる。

そのために、多様な入試制度を実施する中で、これまでに培われた専門性、資質、能力、意欲、人間性、研究指向性などを多角的に評価することを基本的な方針としている。

（大学院学則第1条、第2条より）

【関西学院大学大学院（専門職学位課程）】

関西学院大学大学院（専門職学位課程）は、関西学院のミッション及び各研究科が定める「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に共感し、専攻分野における学術の

理論及び応用、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得するとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することについて

適性を有した学生を世界のあらゆる地域から受け入れる。

そのために、多様な入試制度を実施する中で、これまでに培われた専門性、資質、能力、意欲、人間性、研究指向性などを多角的に評価することを基本的な方針としている。

（専門職大学院学則第2条より）

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年3月23日

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:学部長)
	検証手続き	学部長室委員会の審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年4月
	検証エビデンス	教授会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか		<input type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない
	検証方法(指標、測定方法など)	学部自己評価委員会において検証していく。
	成果	<input type="checkbox"/> 成果あり(内容:) <input checked="" type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容:) <input checked="" type="checkbox"/> 計画なし
	検証エビデンス	学部自己評価委員会の議事録を作成していく。
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年3月11日

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

A-6

学生支援に関する方針		変更の有無
現在のところ作成予定なし。		<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
修学支援	<p>初年次教育</p> <p>1. 共通の教科書作成 初年次必修科目の「基礎演習」において、共通の教科書『基礎演習ハンドブック』を学部として作成し、全クラス共通で用いて、教学上で必要となる基礎的な知識やスキルを習得させます。同ハンドブックは、レポートの書き方やリサーチの方法、プレゼンテーションの技法を主たる内容としていますが、これらは卒業後に社会に出てから必要となる能力と同等であるため、将来を見据えた教育ともなっています。</p> <p>2. コンピュータリテラシーの習得 初年次必修科目の「コンピュータ演習」では、コンピュータをツールとして自在に使えるよう、基礎的なコンピュータ操作方法を習得し、「基礎演習」をはじめその他の科目で得た知識やスキルを学生自身の手によって具現化し、活用できるよう教育しています。</p> <p>3. プレゼンテーションスキルの習得 上記に加えて同「英語コミュニケーション」においても、従来のインプット型の英語教育を越えた、英語によるポスターセッションやプレゼンテーションの機会を多く持つことにより、単純な英語運用能力向上のための授業に留まらず、獲得した能力を定着させ、実際に活用できる能力育成を図っています。</p> <p>TA・RA・SA・メンターの活用 総合政策学部では、メディア情報学科や都市政策学科の建築士プログラムが存在することからPCや実験器具・装置を用いて高度な専門知識を修得させる科目が多く開講されています。そのため多くの TA、SA が活躍しています。大学院生で構成される TA は、メディア情報学科の「メディア制作演習(表現)」、「プログラミング基礎/演習」や、都市政策学科の「建築環境工学実験」などの高度な専門スキル修得のための授業で、履修学生へのきめ細かな教育サポートを行っています。一方、PC スキルの習得を目指す「コンピュータ演習」では、学部生で構成される SA が授業中、巡回をしながら履修生に対して個別にサポートしています。また、「英語コミュニケーション」では LA として、英語運用能力の高い上級生が、必修の「英語コミュニケーション」の Writing で課される課題作成の助言者として関わっています。さらに学部の活性化に向けて様々な活動を行う SCS(Student & Campus Supporter)が、1年次必修科目で少人数形式の「基礎演習」に「ゼミ付」として配置され、いわゆるメンター役として1年生に対して様々なサポートを担っています。</p> <p>アカデミックアドバイザー 総合政策学部では、一定の成績基準を設け、それに該当する学生には専任教員が個別面談による指導を行っています。個別面談は各学期の定期試験期間の前日までに、ひとりにつき10分から15分程度実施しており、基礎演習、研究演習Ⅰ・Ⅱ、メディア工房Ⅰ・Ⅱを履修中の対象者への個別面談は、各演習担当者が実施しています。上記の科目を履修中でない学生への個別面談は、一般学生を FD・カリキュラム委員が、留学生を留学生サポート委員が分担して実施しています。個別面談を実施後、担当教員は所定のフォーマットを用いて面談記録を作成し、管理しています。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
生活支援	外国人留学生に対して、学費負担の軽減として一律10万円を支給する学部独自の奨学金制度を設けています。また冊子の配布等により各種ハラスメント防止に向けた取り組みを行い、相談窓口を設定しています。学生からのその他の相談に対しては、指導教員および職員が必要に応じて対応します。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
進路支援	主に指導教員および職員が必要に応じて対応します。また、全学的体制の下、キャリアセンター主催のガイダンスを行っています。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄															
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ															
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (下記のことが明らかであることに留意する。) <修学支援> ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処 ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施 ・障がい学生に対する修学支援の実施 ・奨学金等の経済的支援の実施 <生活支援> ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内 ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み </div>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ															
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ															
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ															
適切性の検証体制を明確にしているか	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 2px;">責任主体・組織(承認・決裁)</td> <td style="padding: 2px;">教授会(議長:学部長)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">検証手続き</td> <td style="padding: 2px;">学部長室委員会の審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">決定・判断時期</td> <td style="padding: 2px;">毎年4月</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">検証エビデンス</td> <td style="padding: 2px;">教授会・議事録</td> </tr> </table>	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:学部長)	検証手続き	学部長室委員会の審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。	決定・判断時期	毎年4月	検証エビデンス	教授会・議事録								
責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:学部長)																
検証手続き	学部長室委員会の審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。																
決定・判断時期	毎年4月																
検証エビデンス	教授会・議事録																
検証プロセスを適切に機能させているか	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> <td style="padding: 2px;"> <input type="checkbox"/>1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/>2. 機能させていない </td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">検証方法(指標、測定方法など)</td> <td colspan="2" style="padding: 2px;">学部自己評価委員会において検証していく。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">成果</td> <td style="padding: 2px;"><input type="checkbox"/>成果あり (内容:)</td> <td style="padding: 2px; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/>成果なし</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">改善・伸長に向けた</td> <td style="padding: 2px;"><input type="checkbox"/>計画あり (内容:)</td> <td style="padding: 2px; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/>計画なし</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">検証エビデンス</td> <td colspan="2" style="padding: 2px;">学部自己評価委員会の議事録を作成していく。</td> </tr> </table>		<input type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない		検証方法(指標、測定方法など)	学部自己評価委員会において検証していく。		成果	<input type="checkbox"/> 成果あり (内容:)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果なし	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり (内容:)	<input checked="" type="checkbox"/> 計画なし	検証エビデンス	学部自己評価委員会の議事録を作成していく。		
	<input type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない																
検証方法(指標、測定方法など)	学部自己評価委員会において検証していく。																
成果	<input type="checkbox"/> 成果あり (内容:)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果なし															
改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり (内容:)	<input checked="" type="checkbox"/> 計画なし															
検証エビデンス	学部自己評価委員会の議事録を作成していく。																
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()																

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

A-7

教員像	変更の有無
総合政策学部では、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」を基本理念として、複雑かつ高度化した現代社会に潜む諸問題を発見し、問題解決および政策立案能力をもった人材を養成することを目的としている。そのため、カリキュラムにおいても政治学、経済学、社会学等の個別的学問領域を横断的かつ重層的に構造化した教育課程を編成している。こうした学部の理念を理解すると同時に、高い専門知識を有し、高度な研究、研究業績に富み、熱意をもって教育研究活動を行える教員を採用する。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

無しの場合どのように設定するか？	責任主体・組織	
	設定方法	
	設定見込み時期	

教員組織の編制方針	変更の有無
(1) 多様かつ専門性に富んだカリキュラムにそって、総合政策学部ならびに各学科の教育目的に応じた教育・研究活動にふさわしい人材の確保に努める。 (2) コミュニケーションならびにプレゼンテーション力を養い、日本語／英語双方で表現できる学生を育てるため、海外での研究・教育経験を有する人材の確保に努める。 (3) 実学性・実践性を高めるため、国際機関、政府機関、自治体、民間企業等で多様な実務経験をもった人材から、教育目的にふさわしい教員の確保に努める。 (4) 教員採用にあたっては、国籍・性別を問わず、広く人材を選ぶ。 (5) 教員採用にあたっては、教員組織の年齢構成が特定の年齢層に偏らないように配慮する。 (6) 多様な教育の強化をめざして、特別客員教員や任期制教員の採用に努める。 (7) 英語教育の強化をめざして、外国人常勤講師の確保に努める。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認	チェック欄
--	-------

【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:学部長)	
	検証手続き	学部長室委員会の審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。	
	決定・判断時期	毎年4月	
	検証エビデンス	教授会・議事録	
検証プロセスを適切に機能させているか		<input type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない	
	検証方法(指標、測定方法など)	学部自己評価委員会において検証していく。	
	成果	<input type="checkbox"/> 成果あり(内容:)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容:)	<input checked="" type="checkbox"/> 計画なし
	検証エビデンス	学部自己評価委員会の議事録を作成していく。	
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()		